

## 次号予告

## 特集 癌

癌患者を治療する際の病名に関して……………東神戸病院 郷 地 秀 夫  
理学療法・作業療法を施行する上でのリスク

1. 放射線療法を受けている患者 ……東邦大学・大森病院 戸張 千年・他
2. 制癌剤・ホルモン剤を

投与されている患者 ……慶応大学病院 藤 沢 しげ子・他

Stoma患者（人工肛門造設患者）管理……………癌研究会 大 村 裕 子

随想／末期患者に対する理学療法……………高知医科大病院 鶴 見 隆 正

とびら 転換期をむかえる精神科医療……………国立武蔵療養所 樋 田 精 一

講 座 障害学概論 2. 障害の分類

（WHO, ICIDH を中心に）……………東 大 上 田 敏

PT・OT のためのマイコン入門

2. ハードウェア（1）……………労災義肢センター 鈴 木 祥 生

プロGRESS 行動医学の進歩 （2）医学への応用 ……上智大学 西 川 泰 夫

インタビュー＜PT・OT の挑戦＞第8回「理学療法と作業療法」賞・

受賞の御二人に聞く…リハビリセンター鹿教湯病院 金 井 敏 男

高知医療学院 宮 本 省 三

あんてな 作業療法士の求人状況……………神戸大医療技術短大 古 川 宏

## 編集後記

あけましておめでとうございます。本年も編集委員・編集室ともどもより充実した紙面作りをめざす所存でございますのでよろしくお願いいたします。

さて、今回の特集は、「管理」についてとりあげてみました。かつて本誌9巻5号で管理について少し触れたことがあるのですが、その際には、病院全体の管理の考え方が中心でしたので今回は、リハビリ医療、PT・OT 部門の管理に焦点を絞り、この分野に経験深い先生方に登場願い、リハビリ部門の管理について浮彫にしていいただきました。

渡辺氏には、中通りハビリ病院の組織をベースに、都市型リハビリ専門病院の管理上の問題点について述べていただきました。

菊地氏、松下氏にはそれぞれ、PT部門、OT部門の管理についておまとめいただきました。菊地氏は管理職歴10年にあたり、チームリーダー・フォロワールのありかたを改めて整理されております。また松下氏は、過去7年間、氏の部下だった方にアンケートをし、御自身の管理者としての意識と部下の方の意識とのギャップにメスを入れておられます。

座談会では寺山氏に司会をお願いし、人事管理、業務管理、管理者の心構えなど話し合っていました。

各論文・座談会を通して主張されていることは「管理の究極の目的は一人一人がその能力を最大限発揮し、スムーズに良い仕事ができる」ということのようなので「管理は直接管理の責任を荷う人だけが行うものではなく、むしろ1人1人がそれに参加し責任を分担するものなのである」という指摘にも繋がることであり、人ごとではない「参加意識」が大切であると思われま。

さて講座は「障害学概論」と「PT・OT のためのマイコン入門」が始まりました。マイコン入門は、土屋氏をはじめ労災義肢センターのスタッフに初心者向けに分り易くまとめで戴きたいと特にお願しいたしておりますので、メカに弱い方にも必ずお役に立つシリーズになると思います。

また1号から「インタビュー/PT・OT の挑戦」もスタートしました。いろいろな分野にチャレンジしている PT・OT にインタビューいたします。御期待下さい。

（編集室）

## &lt;編集顧問&gt;

天 児 民 和  
九州労災病院名誉院長

五味 重 春  
埼玉県障害者リハビリセ  
ンター所長

砂 原 茂 一  
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一  
東京大学教授整形外科

水 野 祥太郎  
川崎リハビリ学院長  
（五十音順、以下同じ）

## &lt;編集委員&gt;

上 田 敏  
東大リハビリ部

荻 島 秀 男  
ペインリハビリテーシ  
ョンクリニック高島平  
整形外科

大喜多 潤  
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子  
都心身障害者センター

富 岡 詔 子  
信州大学医療技術短大

奈 良 勲  
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子  
筑波大学

松 村 秩  
都養育院リハビリ部

## &lt;編集同人&gt;

池 松 洋 子

伊 東 元

岩 崎 テル子

宇都宮 初 夫

金 子 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 みち子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子

（担当 細田・西塚）